

2012年9月期 決算説明資料

2012年11月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2012年9月期 通期業績 営業概況

2012年9月期 事業総括

3つの投資体制(当社のプリンシパル インベストメント(PI)、ベンチャーキャピタルファンド(VC)、アセットマネジメント事業での運用戦略)のもと、企業投資を中心に事業展開

- ・当社のPI……………高収益の中堅企業、企業再生の支援企業【新規投資】研究所からの技術移転ベンチャー企業
- ・VC……………生命科学関連、IT関連【新規投資】米の再生治療開発会社
- ・アセットマネジメント……アジアのテクノロジー分野、企業の業容拡大の資金ニーズに応える運用戦略【新規投資】著名料理人の日本料理店出店、海外進出企業の支援

投資回収は、PIで期末に予定の大型売却案件を見送り。次期に持ち越し。

- ・当社のPI……………事業再生案件、不動産投資案件の投資回収を始め、償却済債権、全額貸倒引当済債権でも回収あり
- ・VC……………投資先の創業ベンチャー企業で、初の投資回収

投資銀行事業では、ファイナンスアレンジメントの大型案件を当期に実行できず。次期に向け開発型流動化、再生可能エネルギー関連アレンジメントの準備は進む

ヘッジファンド運用では、グローバル・マクロの運用成績低迷により、投資一任契約を解除したため受託資産額は大幅に減少。2011年10月開始の新戦略はAIJ問題の影響で受託資産額の積上げが伸び悩み。

FAMが外部投資家を招聘し有望企業・事業に投資するファンドを設立、運営する事業を新たに開始。運用額を積上げ。

2012年9月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)	2011年9月期 実績	2012年9月期予想値 (2011/11/14発表)	2012年9月期実績	予想比
売上高	6,988	3,560	2,038	△1,521
売上総利益	3,509	2,110	1,129	△980
営業利益	1,276	80	△974	△ 1,054
経常利益	1,220	150	△915	△ 1,065
当期純利益	1,404	280	△1,274	△ 1,554

業績予想値との差異について

■売上高

- ・期末にかけて予定していた投資先企業の売却や事業再生案件・開発型流動化案件のアレンジなど複数の大型案件のクローズを次期に見送り。
- ・ベンチャーファンドFGFの投資先企業の株式を売却で投資回収。FGF単体で売上高322百万円を計上。
- ・再保険事業のCranesは、多額の保険料返戻及び保険金支払の請求を受ける。詳細は調査中であるが、本決算ではCranesは売上計上せず、請求により見積られる損失のみを計上。(期初計画値は、売上高8.2億円)
【詳細は6頁をご覧ください】

■利益面

- ・売上原価は、再保険事業で予定していた保険料収入に対する原価が減少(計画値より320百万円減少)
- ・販売費及び一般管理費は支払手数料の削減、引当済の貸付金回収で計画値より146百万円減少
- ・営業外収益に債権取立償却益52百万円を計上
- ・特別損失にのれん償却額126百万円を計上

連結損益計算書(概要)

	2011年9月期 実績	2012年9月期 期初予想	2012年9月期 実績	前期比	前期比の主な要因 又は当期実績の内訳
売上高	6,988	3,560	2,038	△ 4,950	大型投資案件が投資回収に至らず、次期に期ずれ 再保険事業での売上計上なし (セグメント情報参照)
売上原価	3,479		1,129	△ 2,349	当期内訳: 不動産投資事業の原価:509百万円 再保険事業:388百万円
売上総利益	3,509	2,110	908	△ 2,600	
販売費及び 一般管理費	2,232		1,883	△ 348	前期比: 支払手数料 185百万円減 貸倒引当金繰入額 158百万円減(回収により引当繰入をマイナスで計上)
営業利益	1,276	80	△ 974	△ 2,251	
営業外収益	13		68	54	当期内訳: 償却債権取立益52百万円
営業外費用	69		8	△ 60	
経常利益	1,220	150	△ 915	△ 2,136	
特別利益	589		3	△ 585	
特別損失	398		209	△ 189	当期内訳: のれん償却額126百万円
税金等調整前当期純利益	1,411		△ 1,121	△ 2,532	
法人税等	61		31	△ 29	
少数株主利益又は 少数株主損失(△)	△ 53		121	175	当期内訳: 主にFGFの少数株主利益を計上
当期純利益	1,404	280	△ 1,274	△ 2,678	

セグメント情報

(単位:百万円)		2011年 9月期	2012年 9月期	前期比
1	投資銀行事業	売上高 448	165	△283
		営業利益 91	△110	△201
2	アセットマネジメント事業	売上高 454	226	△228
		営業利益 △52	△148	△96
3	プリンシパル インベストメント事業	売上高 4,005	796	△3,209
		営業利益 1,865	227	△1,637

1 **フィンテックグローバル証券：**
 企業再生のフィナンシャル・アドバイザリー業務で一定収益を計上するとともに、その中で把握された顧客のファイナンスニーズに対応するソリューションを提供。しかしながら大型のファイナンスアレンジが当期に実行できず、売上減少。

2 **フィンテックアセットマネジメント：**
 外部投資家を招聘し有望企業・事業に投資するファンドを設立、運営する事業を新たに開始。不動産AMも受託が増加しAUM増加。下半期は黒字化まであと一歩。

FGIキャピタル・パートナーズ：
 ヘッジファンド運用では、グローバルマクロファンドとの投資一任契約の解除でAUMが大幅減少。2011年10月開始の新運用戦略は運用成績は好調であったものの、A I J問題の影響を受けてAUMの積み増しが遅れる。ベンチャー投資運用も、投資先エグジットが遅れ成功報酬が計上できず。

3 **フィンテックグローバル：**
 上半期は不動産投資案件の回収により収益計上。期末に予定していた企業投資の大型案件で売却に至らず、次期での収益計上を狙う。

(注)売上高はセグメント間取引を含む。

セグメント情報

(単位:百万円)		2011年 9月期	2012年 9月期	前期比
4	その他投資先事業	売上高 1,930	881	△1,049
		営業利益 31	△217	△249
5	公共財関連事業	売上高 208	208	0
		営業利益 △42	△106	△63

ベルス：
サービス提供先企業を5社開拓、アライアンスパートナー増加など営業基盤を強化。持家サービス部門の広告、キャンペーンのプロモーションが奏功し、単体売上高は555百万円(前期比7.2%増)、営業利益88百万円(前期比51.2%増)

Crane Reinsurance Limited：
2012年1月以降、新たな再保険契約を締結せずに、既存契約に基づき収益費用に計上。出再保険会社(Hardy (Underwriting Agencies) Limited)から、突如多額の保険料返戻及び保険金支払に関する請求を受けたため、当該保険会社に対し請求

4
内容を照会し、データの提出を依頼したところ、当該保険会社またはその関係先における保険料や保険金の精算に誤りがあった為に調整したことが、今回の多額の請求の主な原因であるとの報告を受ける。しかしながら、現時点では、当該保険会社からは、Craneによる要請にもかかわらず、上記請求内容の妥当性を裏付けるに足る説明内容やデータが未だ提供されておらず、Craneとしては承服しがたいため、引き続き関連データの収集と分析を進めることによって真相解明を急ぐとともに、当該保険会社やその他本件関係者とのあらゆる段階での交渉を進める。

なお、上述の経緯の中、現在に至るまでの関連データ収集と分析に多大な時間を要し、交渉もなお継続している状況下、不本意ではあるが、本決算では売上は計上せず、今回の請求により見積られる損失のみを計上することとした。

FinTech Gimv Fund,L.P.：
投資先の創業ベンチャー企業の株式売却で初の投資回収となり、売上高322百万円、営業利益196百万円を計上。

5
パブリック・マネジメント・コンサルティング：
総務省の「今後の新地方公会計の推進に関する研究会」の答申待ちの地方自治体が多く、契約件数が伸び悩み。一方で、セグメント別行政コスト・自動計算ソフト「改革」の販売を開始するとともに、地方自治体以外で官庁会計を利用するマーケットを開拓して契約拡大に努める。

(注)売上高はセグメント間取引を含む。

連結貸借対照表(概要)

(単位:百万円)	11年9月期	12年9月期	前期末比
流動資産	6,656	5,722	△ 933
現金及び預金	1,804	2,522	718
営業投資有価証券	2,002	2,400	397
販売用不動産	420	—	△ 420
営業貸付金	2,707	2,480	△ 226
未収入金	1,563	107	△ 1,456
その他	249	238	△ 10
貸倒引当金	△ 2,091	△ 2,025	65
固定資産	1,026	695	△ 330
有形固定資産	169	151	△ 18
無形固定資産	502	280	△ 222
投資その他の資産	354	263	△ 90
資産合計	7,682	6,417	△ 1,264
流動負債	1,176	807	△ 368
短期借入金	55	40	△ 15
預り金	490	474	△ 16
未払金	301	136	△ 164
その他	329	157	△ 172
固定負債	1,635	1,977	342
社債	—	56	56
保険契約準備金	1,286	1,648	361
その他	348	272	△ 75
負債合計	2,811	2,785	△ 26
株主資本	3,936	2,543	△ 1,393
その他の包括利益累計額	△ 179	△ 180	0
新株予約権	18	18	0
少数株主持分	1,096	1,252	156
純資産合計	4,870	3,632	△ 1,238
負債純資産合計	7,682	6,417	△ 1,264

1 当社グループ運用のオルタナティブ投資、
企業投資による増加

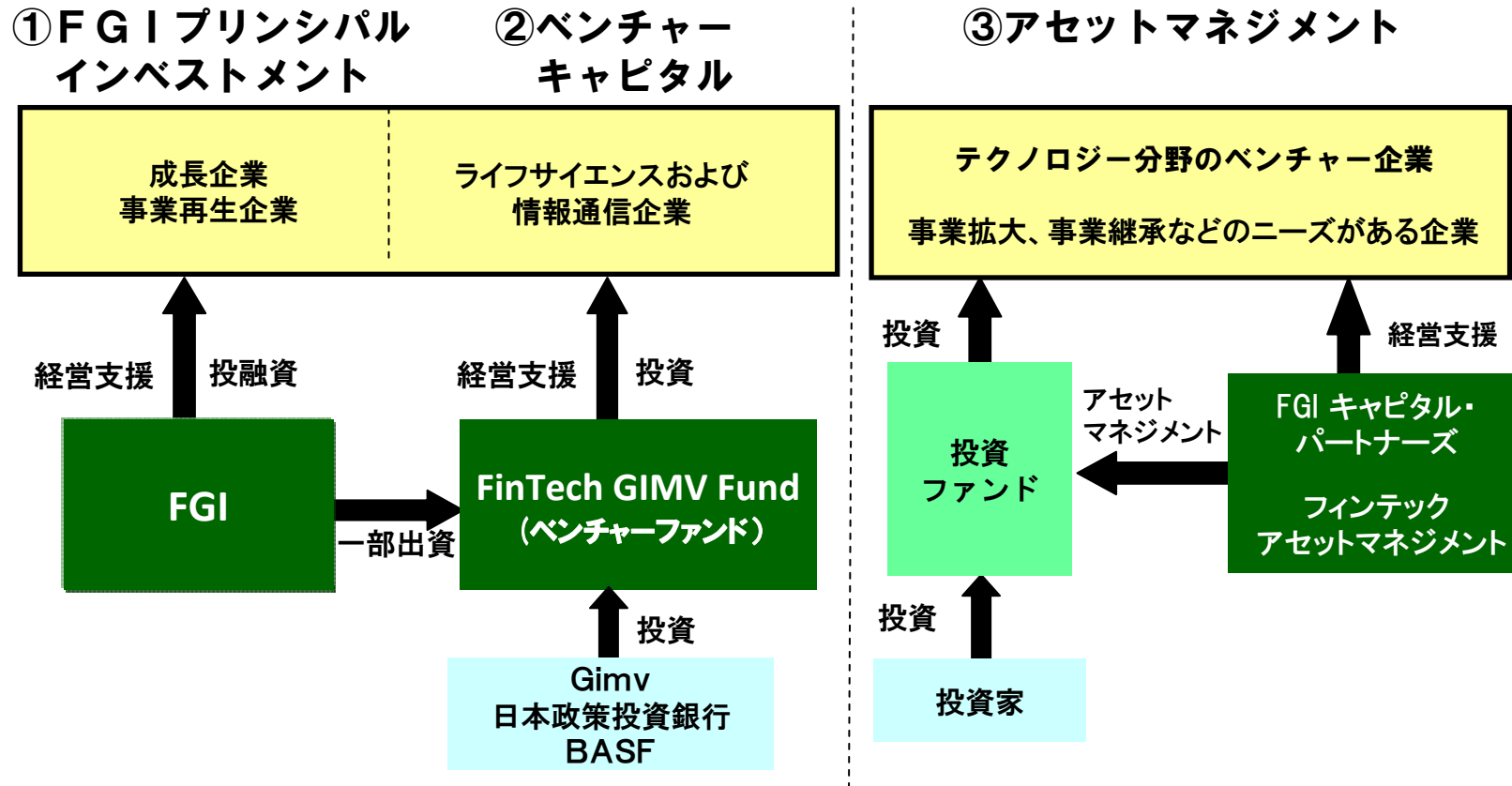
2 不動産投資、ローン回収が進む

3 FGICP のれん一括償却による減少
126百万円

4 再保険事業の支払備金の増加

2012年9月期の投資活動

3つの投資体制が、それぞれ独自のポリシーで投資実行するとともに、投資先の価値を高める経営支援をしています。



2012年9月期の投資先企業(抜粋)

① F G I のプリンシパル インベストメント

株式会社アダコテック【新規投資先】

独立行政法人産業技術総合研究所が開発した技術であるHLAC/CHLACの応用開発と事業化を行っています。

静止画・動画等の映像を瞬時に認識するこの技術は、カメラ映像から異常な動きを見つけ出すセキュリティーシステムをはじめ、半導体等の外観検査など各分野への応用が期待されており、国の研究所にも導入が予定されています。

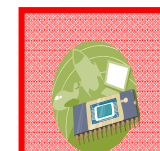
個体認識



環境計測評価



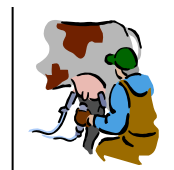
半導体等の外観検査



セキュリティ



第一次産業分野

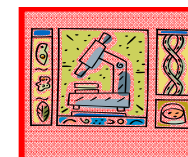


HLAC・CHLAC技術を各分野へ応用

類似画像検索



医療・福祉分野



R & Y 株式会社【既存投資先】



健康食品、化粧品企画販売会社のR&Y株式会社は、プラセンタ・サプリ「プラセンタ100」で圧倒的な市場占有率を誇っています。業界のリーディング・カンパニーとして年々業績を拡大させています。



プラセンタ100

2012年9月期の投資先企業(抜粋)

②ベンチャーキャピタル投資

SFJ Pharmaceuticals Inc. 【追加投資先】



パートナー製薬企業に革新的な資金調達アプローチを提供しており、エーザイやファイザーといった大手製薬企業と有望な新薬候補品の共同開発契約を締結しています。

Histogenics Corporation 【新規投資先】  Histogenics

スポーツ・事故等による膝軟骨損傷に対して、新生関節軟骨移植の再生医療ビジネスを展開する企業です。

Intellikine, Inc. 【投資回収】



癌・炎症性疾患治療薬の研究開発に特化したアメリカのIntellikine社は、武田薬品工業株式会社の子会社を買収されたことで、2012年投資回収に至りました。

iPierian, Inc. 【既存投資先】



iPS技術を基盤とする創薬技術を用いて、アルツハイマー病等の神経変性疾患の治療薬を開発する企業です。世界で初めてiPS細胞の樹立を報告した京都大学の山中伸弥教授が同社の科学諮問委員会委員に就任しております。

Oree 【追加投資先】



イスラエルの平面型LEDモジュール企業です。独自の導光板と光素子実装技術で、薄く均一に発光するLEDモジュールを開発・販売しています。これをファブレスで、バックライト及び照明用に販売しています。

株式会社アール・アイ 【既存投資先】 

稀少な国産ユーティリティソフトメーカーです。法人向けの販売チャンネル開拓に成功し、導入700社・20000ライセンスを販売しております。

2012年9月期の投資先企業(抜粋)

③アセットマネジメント運用戦略

滋味株式会社【新規投資】

著名日本調理人の飲食店経営事業を統括管理する持株会社であり、ブランド価値の向上、潜在的な収益力の実現を目指すプロジェクトを推進しております。
当該プロジェクトにおいては、フィンテックアセットマネジメント（FAM）が、計画策定、資金調達、計数管理等の支援をするとともに、フィンテックグローバルはFAMが組成したファンドを通じて一部出資しています。



愛即可餐飲(上海)有限公司【新規投資】

飲食店事業を展開するエイジック株式会社が渋谷等で運営する人気店「ホルモン倶楽部 あじくら」を中国（上海）で展開するプロジェクトを運営する会社です。
フィンテックグローバルは、当プロジェクトにフィンテックアセットマネジメントが組成したファンドを通じて一部出資するとともに、現地での許認可取得等を含む出店サポート、及び運営サポートをしております。店舗は“あじや”として2012年11月から営業を開始しました。

投資先企業の連結範囲について

当社の投資先は、成長著しい企業や業績安定した中堅企業などさまざま

近年の企業投資拡大により、
投資先企業の連結決算上の取扱いが課題に



FGIグループでは、シナジー効果も連携関係も見込まれないなどの条件を満たす限り、投資先、もしくは当社が組合を通じて100%出資していた場合でも、投資先及び組合は単なる投資先でしかいないため、連結子会社としない会計方針をとることとします。

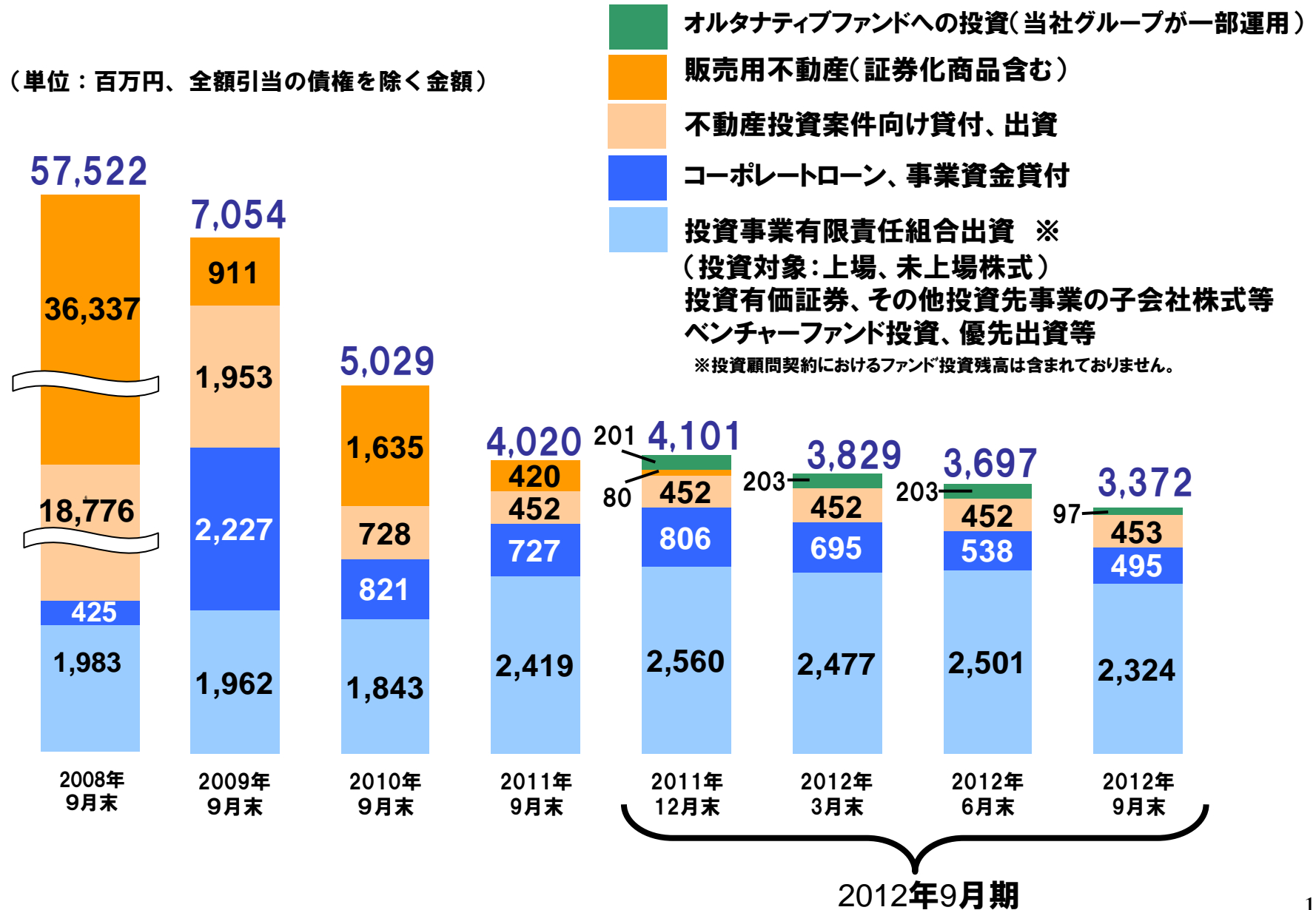
(注)

(注)「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する監査上の取扱い」(監査委員会報告第60号)の2(6)⑥項で規定する取扱いで、いわゆる「ベンチャーキャピタル条項」を満たす場合のみとします。

従って、決算上で企業投資による損益が発生するのは、基本は投資期間終了後となります。投資期間中においては、配当金や経営管理報酬等による収益実現の可能性があります。

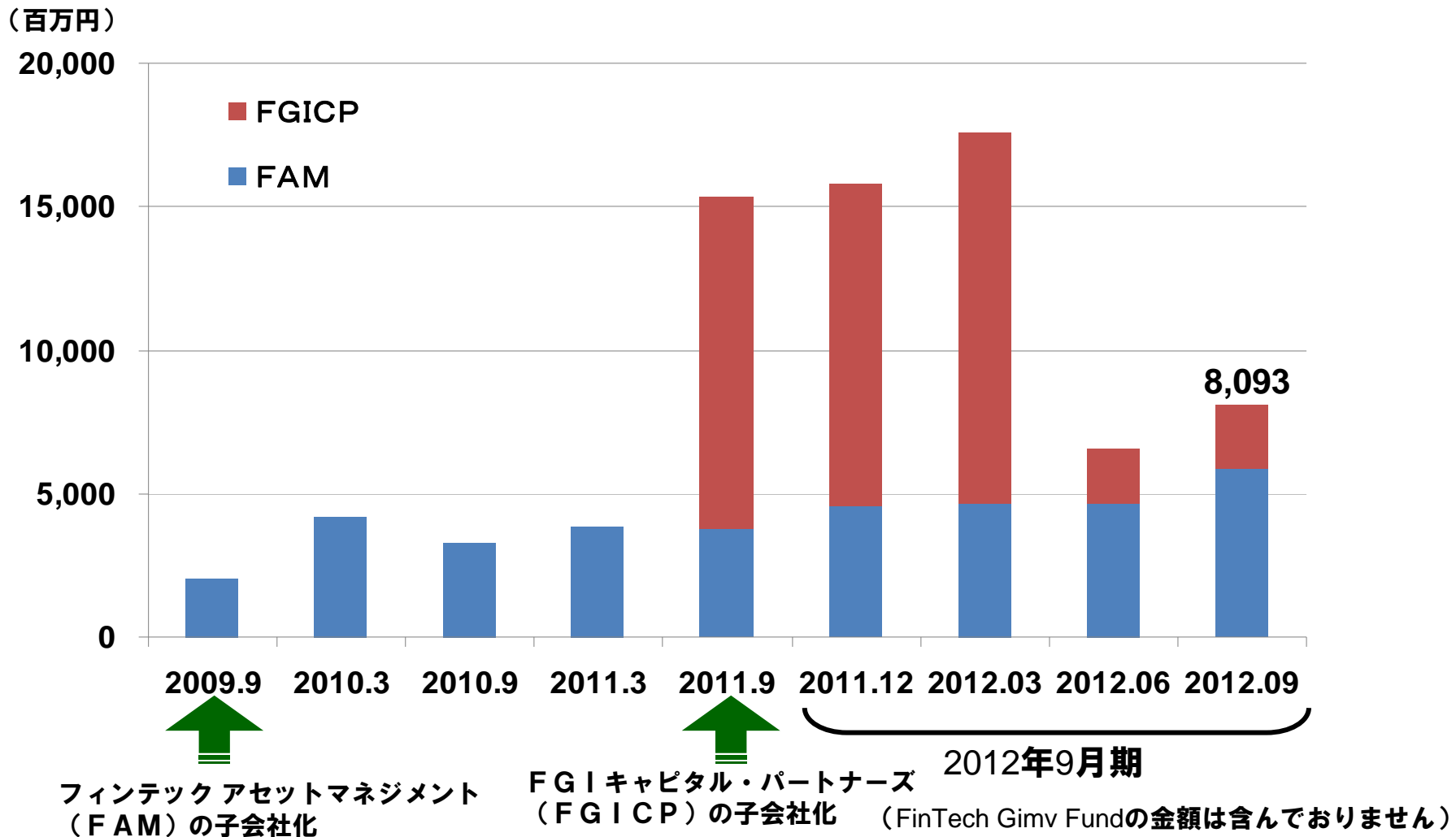
プリンシパルインベストメントのポートフォリオの推移

(単位：百万円、全額引当の債権を除く金額)



アセットマネジメント事業の受託資産残高(AUM)の推移

FGICPは、グローバル・マクロ・ファンドの投資一任契約解消により、受託額が減少
 FAMは、ホテルや賃貸住宅、サービス付高齢者向け賃貸住宅(開発型)のアセットマネジメントを受託し、受託額が増加

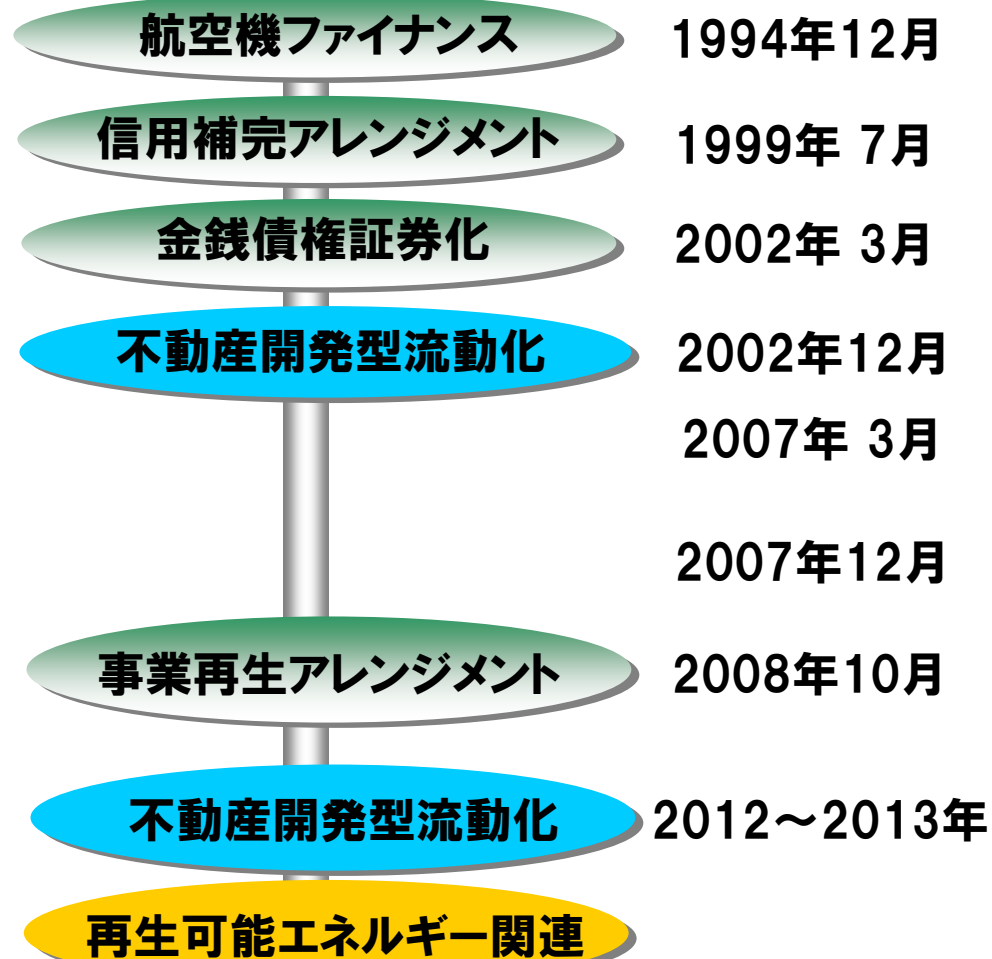


2013年9月期 基本施策及び業績予想

2013年9月期の事業展開

開発型流動化、再生可能エネルギー関連のファイナンスアレンジメントを強化
企業投資も引続き積極展開

ストラクチャードファイナンス(アレンジメント)



企業投資



2013年9月期 通期業績予想について

2013年9月期の収益計上にかかる基本的な考え方

ストラクチャードファイナンス(アレンジメント)

企業投資

2012年9月期まで

経常的な赤字が続き、株式売却益に依存する傾向

定型的なアレンジ案件の不足

+

年間数件の投資回収で
多額の利益計上

2013年9月期

株式売却益に依存せず、業績安定化

開発型流動化、再生可能エネルギー関連等
のファイナンスアレンジメントで経常的な
収益計上による黒字体質への転換

+

投資回収による売却益に加え、
配当金、経営管理報酬でも
収益計上

現時点で連結業績予想は未定

投資先企業の売却案件や事業再生、開発型流動化アレンジで期ずれの複数の大型案件が存在。これらの大型案件がクローズした場合、その各条件(金額等)により、業績に著しい影響がでるため、現段階で合理的な業績予想は困難

これらの大型案件による影響が判明次第、連結業績予想を提示させていただきます。

セグメント別の施策

2012年9月期の営業状況・課題事項

■投資銀行事業

定型的なアレンジメント案件の不足。
不動産関連会社の事業再生案件の需要減少。

■アセットマネジメント事業

FGICPの受託資産額(AUM)が大きく減少。
FAMIは期末にかけてAUMが増加したが、黒字化には至らず。

■プリンシパルインベストメント事業

投資先企業は堅実に成長。
大型案件の投資回収にいたらず。

■その他投資先事業

ベルスは堅調。FGFは初の投資回収。
Craneは保険料返戻と保険金支払により、大幅な赤字。

■公共財関連事業

研究会の答申待ちの自治体が多く、契約伸び悩み。
業務効率化による費用圧縮も課題。

次期の営業推進事項

定型的に繰返し組成可能なアレンジメント案件の確立。
(開発型流動化、再生可能エネルギー関連)

FGICPは他社との提携も含む抜本的な事業構築策を検討。
FAMIは企業投資戦略、不動産投資戦略でのAUMの一段増加による黒字化。

有望な投資先発掘と育成(スタートアップ企業から中堅企業まで)。
投資先探索チャンネル増加。投資回収による収益化。

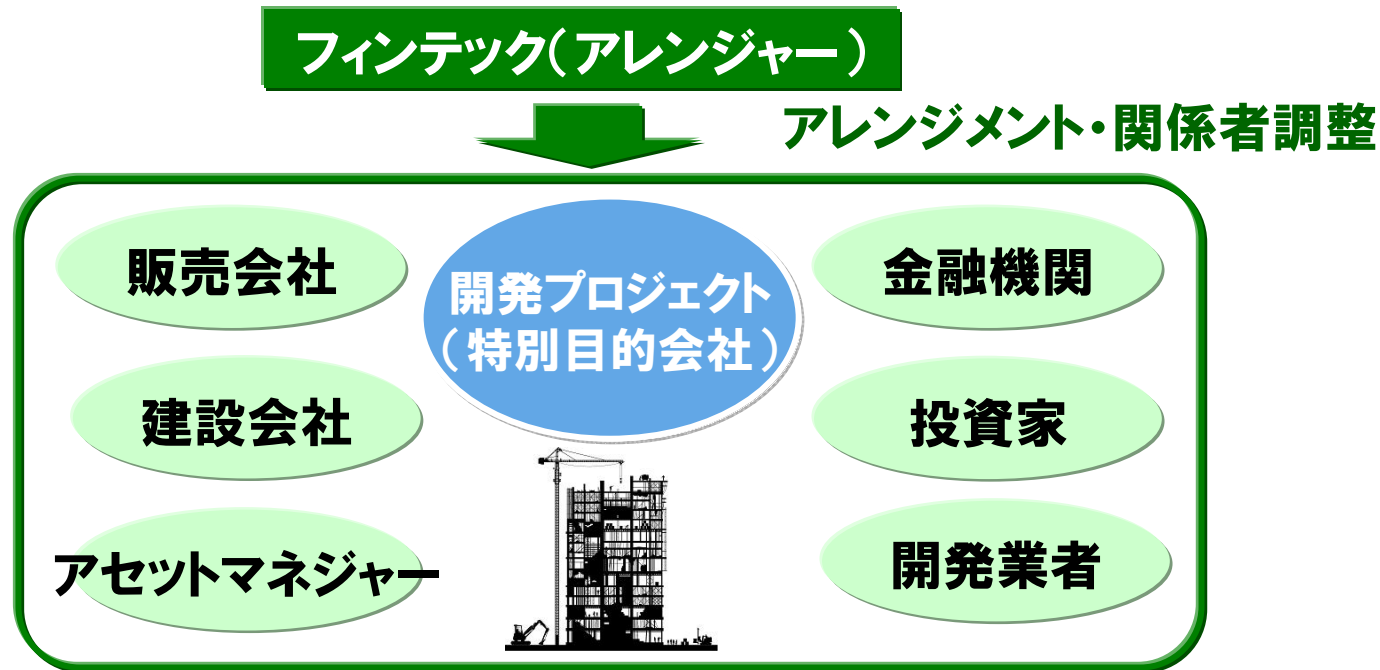
ベルスは会員組織の更なる活性化とデジタル販促媒体の導入・収益化。
FGFは投資先の更なる育成と投資回収の検討。
Craneは出再保険会社からの関連データ収集とデータ分析による対応策策定。

システム保守費用圧縮。新地方公会計セミナーなどの継続的開催でニーズ発掘。
システムエンジニアリングの一部業務の外部委託などによる効率化で黒字化へ。

フィンテックの開発型流動化における役割

開発型流動化を推進する条件は整っています。

開発型流動化の仕組みを作るとともに、金融機関の招聘、関係者の調整などこの仕組み全体をアレンジします。



アレンジャーに必要な能力

- ・関係者のニーズの正確な把握
- ・コーディネート力、情報ネットワーク
- ・専門知識

フィンテックは開発型流動化6,842億円^(注)のアレンジ実績

(注)金融機関等から組成案件への資金拠出の累計額。オリジネーターの出資額を含む。

再生可能エネルギー事業への展開

開発型流動化で多くのプロジェクトを手掛けた経験を基に、再生可能エネルギー事業のプロジェクトファイナンスをアレンジ

再生可能エネルギー発電事業の参入では、初期の設備投資や運営費用の資金調達が1つのポイント。

FGIでは、再生可能エネルギー事業の資金調達において、将来に事業が生み出すキャッシュ・フローに着目して、これを担保に金融機関から資金を調達するプロジェクトファイナンスを提案しています。



再生可能エネルギー事業でフィンテックが目指すもの

発電事業の地産地消を目的に、発電対象地の資金を極力導入します

地域の新産業として地域が主体的に取り組んでいけるよう、ファイナンス面においても、地域の投資家や企業が中心となって出資していただくスキームにするとともに、地域金融機関からのノンリコースローンを導入していく方針です。

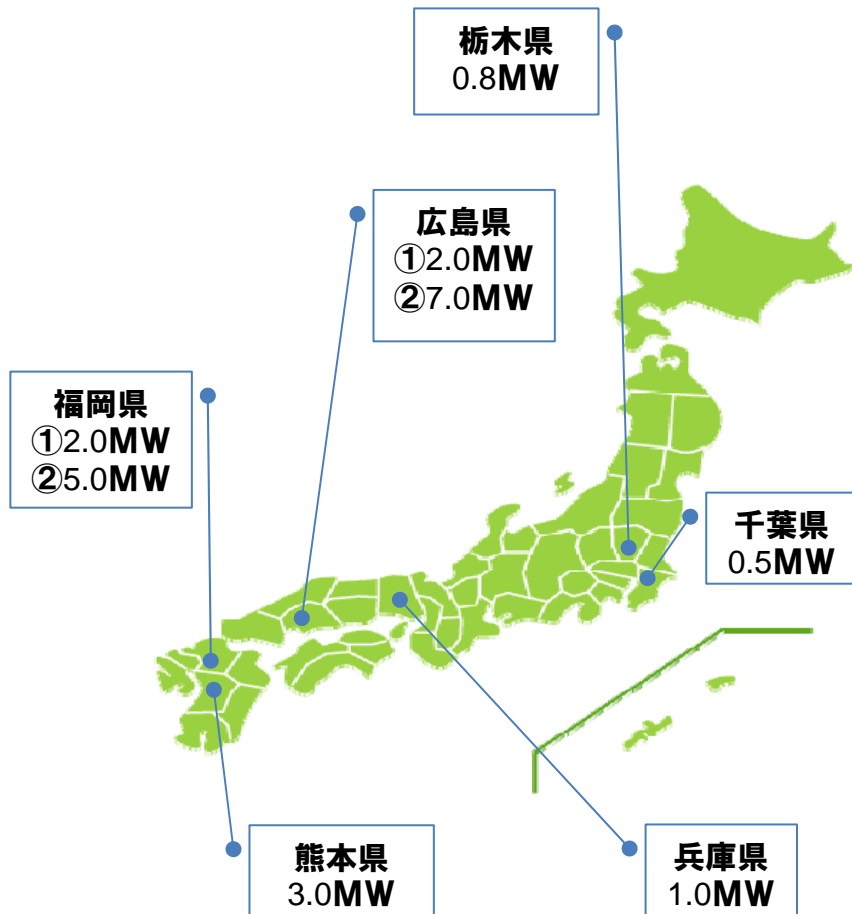


住民と地元事業者、金融機関、地方自治体が連携しながら、地域の雇用も確保できる新たな地場産業となるようなアレンジをします。

公共財関連ビジネス展開

計画進行中の太陽光発電プロジェクト

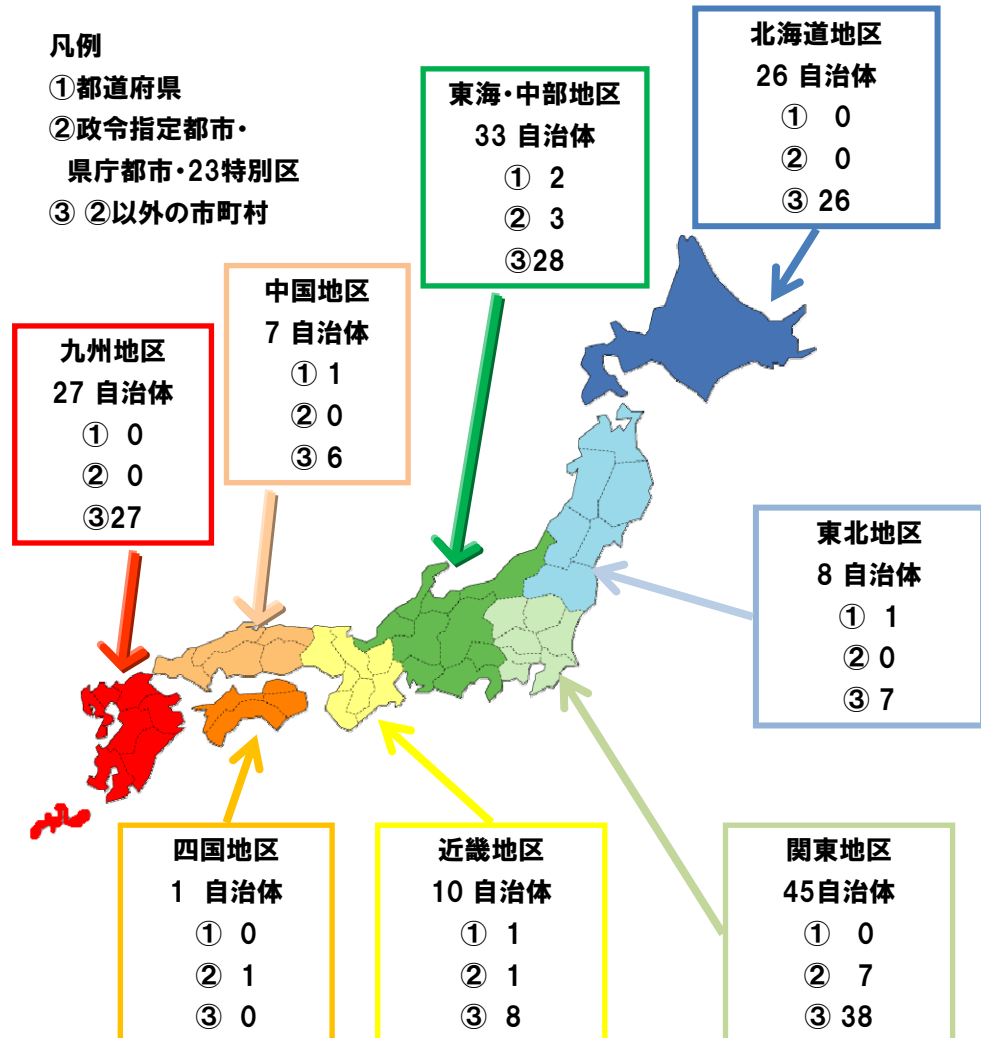
(2012年10月31日現在)



(注)計画は変更される場合があります。

パブリック・マネジメント・コンサルティングの取引実績

(全国合計157自治体、2012年9月30日現在)



期末配当の実施

■ 2012年9月期期末配当の概要

- ✓ 当社普通株式 1株につき金100円 配当総額 120,924,300円
(支払開始日 2012年12月25日)
- ✓ 経営基盤の強化と拡大する事業を迅速かつ確実に捉えるために、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ利益を還元することが配当政策上重要であると考え、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案して配当することを基本としています。
当期においては当期の業績や今後の業績見通し、内部留保、今後の事業展開等を総合的に勘案した結果、前期に引続き1株当たり100円の期末配当を実施

(注) 2012年9月期 期末配当については、2012年12月21日開催予定の第18期定時株主総会の決議をもって正式に決定、実施する予定であります。

■ 2013年9月期の配当予想について

- ✓ 2013年9月期の配当予想は、前記のとおり業績動向が見通せていないため、現段階では未定とし、開示が可能となった段階で改めてお知らせします。

参考資料

- 個別財務諸表（貸借対照表、損益計算書）
- 子会社単体業績の推移
- 連結業績推移（6期分）
- 会社概要

個別貸借対照表

資産の部

	11年9月期	12年9月期	増減
流動資産	3,066,538	1,993,193	△ 1,073,344
現金及び預金	425,683	557,319	131,636
売掛金	105	6,090	5,985
営業投資有価証券	799,007	846,977	47,970
販売用不動産	284,078	—	△ 284,078
営業貸付金	2,718,194	2,496,441	△ 221,752
短期貸付金	146,127	67,527	△ 78,599
未収入金	758,545	136	△ 758,408
その他	35,005	46,828	11,822
貸倒引当金	△ 2,100,208	△ 2,028,127	72,080
固定資産	3,843,843	2,487,118	△ 1,356,724
有形固定資産	157,079	137,500	△ 19,578
無形固定資産	10,684	5,838	△ 4,845
投資その他の資産	3,676,079	2,343,780	△ 1,332,299
資産合計	6,910,381	4,480,312	△ 2,430,069

負債の部

(単位: 千円)

	11年9月期	12年9月期	増減
流動負債	2,977,952	1,731,948	△ 1,246,004
短期借入金	1,287,026	1,219,684	△ 67,341
未払金	1,155,402	28,636	△ 1,126,766
預り金	483,602	454,880	△ 28,721
その他	51,920	28,746	△ 23,174
固定負債	38,268	74,716	36,448
退職給付引当金	22,317	28,394	6,077
その他	15,951	46,322	30,371
負債合計	3,016,221	1,806,665	△ 1,209,556

純資産の部

株主資本	3,876,068	2,655,642	△ 1,220,426
資本金	2,312,384	2,312,517	133
資本剰余金	14	14	0
利益剰余金	1,563,669	343,109	△ 1,220,560
新株予約権	18,091	18,005	△ 86
純資産合計	3,894,160	2,673,647	△ 1,220,512
負債純資産合計	6,910,381	4,480,312	△ 2,430,069

個別損益計算書

(単位: 千円)

	2011年9月期	2012年9月期	増減
売上高	4,474,381	958,337	△ 3,516,044
売上原価	1,840,575	407,719	△ 1,432,856
売上総利益	2,633,805	550,618	△ 2,083,187
1 販売費及び一般管理費	1,372,350	760,600	△ 611,749
営業利益又は営業損失(△)	1,261,455	△ 209,982	△ 1,471,437
営業外収益	14,352	64,317	49,965
営業外費用	30,875	3,368	△ 27,507
経常利益又は経常損失(△)	1,244,931	△ 149,033	△ 1,393,964
特別利益	496,433	3,673	△ 492,759
特別損失	176,484	2 953,085	776,601
税引前当期(四半期)純利益 又は税引前四半期純損失(△)	1,564,879	△ 1,098,445	△ 2,663,325
法人税等	1,210	1,210	0
当期純利益又は当期純損失(△)	1,563,669	△ 1,099,655	△ 2,663,325

1 主に、支払手数料の削減及び引当済の貸付金の回収により貸倒引当金繰入額をマイナスで計上したことによる減少

2 FGICPの関係会社株式評価損324百万円(2Q計上)、FGSの関係会社株式評価損139百万円(4Q計上)、Craneの関係会社株式評価損363百万円(4Q計上)

子会社単体業績の推移

単位：百万円

フィンテック グローバル証券	2011年9月期			2012年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	309	138	448	119	45	165
売上総利益	306	138	445	119	45	165
経常利益	150	△56	93	△42	△66	△109

フィンテック アセット マネジメント	2011年9月期			2012年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	178	166	344	54	82	136
売上総利益	178	119	297	54	81	135
経常利益	19	△27	△8	△16	△4	△21

FGIキャピタル・ パートナーズ	2011年9月期 (2011年5月～9月) (注)	2012年9月期		
		上半期	下半期	通期
売上高	110	70	19	90
売上総利益	110	70	19	90
経常利益	△32	△118	△38	△156

(注) 2011年5月より連結業績に取り込んでおります。

パブリック・ マネジメント・ コンサルティング	2011年9月期			2012年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	122	85	208	118	89	208
売上総利益	57	21	79	27	24	51
経常利益	1	△46	△44	△53	△53	△107

ベルス	2011年9月期			2012年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	244	274	518	253	302	555
売上総利益	190	232	423	212	261	474
経常利益	2	51	53	25	58	83

Crane Reinsurance	2011年9月期			2012年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	618	789	1,408	—	—	—
売上総利益	134	18	153	7	△396	△388
経常利益	125	△15	110	8	△428	△420

連結業績の推移

決算年月		2007年 9月期	2008年 9月期	2009年 9月期	2010年 9月期	2011年 9月期	2012年 9月期
売上高	(百万円)	16,914	14,165	10,385	3,465	6,988	2,038
売上総利益	(百万円)	11,432	8,314	△ 7,326	935	3,509	1,129
経常利益又は経常損失 (△)	(百万円)	5,951	△ 9,114	△ 21,197	△ 2,604	1,220	△ 915
当期純利益又は当期純損失 (△)	(百万円)	1,767	△ 7,160	△ 12,091	△ 2,172	1,404	△ 1,274
純資産額	(百万円)	27,191	17,426	5,447	3,164	4,870	3,632
総資産額	(百万円)	90,740	79,021	15,766	7,352	7,682	6,417
1株当たり純資産額	(円)	20,797.85	13,911.77	3,851.31	2,024.72	3,152.33	1,981.69
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額 (△)	(円)	1,484.29	△ 5,937.48	△ 10,008.43	△ 1,798.88	1,168.69	△ 1,069.83
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	1,395.39	—	—	—	1,168.05	—
自己資本比率	(%)	27.56	21.27	29.52	33.30	48.90	36.82
自己資本利益率	(%)	7.09	△ 34.25	△ 112.68	△ 61.21	45.30	—
株価収益率	(倍)	23.78	—	—	—	2.57	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 10,000	13,155	8,333	626	1,953	959
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 7,150	△ 12,099	7,687	△ 2,281	△ 631	80
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	15,018	△ 6,743	△ 19,674	△ 3,376	△ 413	△ 233
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	15,163	9,500	5,811	829	1,711	2,522
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	129(11)	112(7)	117(16)	72(13)	70(17)	60(19)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	78(8)	83(5)	50(5)	40(2)	15(2)	20(3)

会社概要

会 社 名	フィンテック グローバル株式会社 (FinTech Global Incorporated)			
本 店 所 在 地	東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス19F			
設 立 年 月 日	1994年12月7日			
上 場 年 月 日	2005年6月8日、東京証券取引所マザーズ (Code:8789)			
資 本 金	2,312,517,793円、発行済株式数1,209,243株(2012/9/30現在)			
連 結 純 資 産	3,632百万円(2012/9/30現在)			
連 結 総 資 産	6,417百万円(2012/9/30現在)			
役 員	代表取締役社長	玉井 信光	常勤監査役	二宮 幸一
	取締役会長	ロバート・ハースト	監査役	西川 茂樹
	取締役	鷺本 晴吾	監査役	萩原 啓史
	取締役	三橋 透		
	取締役	山中 秀介		
大株主	玉井 信光	240,955株	(19.92 %)	
	藤井 優子	52,014株	(4.30 %)	
	SIX SIS LTD.	38,608株	(3.19 %)	
	青島 正章	35,325株	(2.92 %)	
	BANK JULIUS BAER AND CO.,LTD.	24,800株	(2.05 %)	
	(2012/9/30現在)			

会社概要

従業員数	連結60名、単体20名（2012/9月末現在／臨時従業員を除く）						
主な子会社	<table border="0"> <tr> <td> フィンテック グローバル証券株式会社 フィンテック アセットマネジメント株式会社 FGIキャピタル・パートナーズ株式会社 株式会社バブリック・マネジメント・コンサルティング 株式会社ベルス フィンテック グローバル キャピタル合同会社 フィンテック グローバル鑑定株式会社 フィンテックキャピタルリスクソリューションズ株式会社 株式会社公共ファイナンス研究所 株式会社公共財アセットマネジメント </td> <td> 海外子会社： Crane Reinsurance Limited FINTECH GIMV FUND,L.P. (FGF) 飛堤克投資諮詢(上海)有限公司 </td> </tr> </table>	フィンテック グローバル証券株式会社 フィンテック アセットマネジメント株式会社 FGIキャピタル・パートナーズ株式会社 株式会社バブリック・マネジメント・コンサルティング 株式会社ベルス フィンテック グローバル キャピタル合同会社 フィンテック グローバル鑑定株式会社 フィンテックキャピタルリスクソリューションズ株式会社 株式会社公共ファイナンス研究所 株式会社公共財アセットマネジメント	海外子会社： Crane Reinsurance Limited FINTECH GIMV FUND,L.P. (FGF) 飛堤克投資諮詢(上海)有限公司				
フィンテック グローバル証券株式会社 フィンテック アセットマネジメント株式会社 FGIキャピタル・パートナーズ株式会社 株式会社バブリック・マネジメント・コンサルティング 株式会社ベルス フィンテック グローバル キャピタル合同会社 フィンテック グローバル鑑定株式会社 フィンテックキャピタルリスクソリューションズ株式会社 株式会社公共ファイナンス研究所 株式会社公共財アセットマネジメント	海外子会社： Crane Reinsurance Limited FINTECH GIMV FUND,L.P. (FGF) 飛堤克投資諮詢(上海)有限公司						
グループ事業内容	<table border="0"> <tr> <td>I 投資銀行事業</td> <td>II アセットマネジメント事業</td> </tr> <tr> <td>III プリンシパルインベストメント事業</td> <td>IV その他投資先事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>V 公共財関連事業</td> </tr> </table>	I 投資銀行事業	II アセットマネジメント事業	III プリンシパルインベストメント事業	IV その他投資先事業		V 公共財関連事業
I 投資銀行事業	II アセットマネジメント事業						
III プリンシパルインベストメント事業	IV その他投資先事業						
	V 公共財関連事業						
主要取引銀行	みずほ銀行 りそな銀行 三井住友銀行 東京三菱UFJ銀行						
許認可等	<table border="0"> <tr> <td> フィンテックグローバル(株) 金融商品取引業（第二種、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第1469号 貸金業：東京都知事（2）第31237号 宅地建物取引業 登録番号：東京都知事（2）第88189号 </td> <td> フィンテックアセットマネジメント(株) 金融商品取引業（投資運用業、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第2014号 総合不動産投資顧問業 総合一第74号 宅地建物取引業 東京都知事（2）第86357号 貸金業：東京都知事（2）第31145号 </td> </tr> <tr> <td> フィンテックグローバル証券(株) 金融商品取引業（第一種、二種） 関東財務局長（金商）第153号 貸金業：東京都知事（3）第30390号 </td> <td> FGIキャピタル・パートナーズ(株) 金融商品取引業（投資運用業、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第2175号 </td> </tr> </table>	フィンテックグローバル(株) 金融商品取引業（第二種、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第1469号 貸金業：東京都知事（2）第31237号 宅地建物取引業 登録番号：東京都知事（2）第88189号	フィンテックアセットマネジメント(株) 金融商品取引業（投資運用業、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第2014号 総合不動産投資顧問業 総合一第74号 宅地建物取引業 東京都知事（2）第86357号 貸金業：東京都知事（2）第31145号	フィンテックグローバル証券(株) 金融商品取引業（第一種、二種） 関東財務局長（金商）第153号 貸金業：東京都知事（3）第30390号	FGIキャピタル・パートナーズ(株) 金融商品取引業（投資運用業、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第2175号		
フィンテックグローバル(株) 金融商品取引業（第二種、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第1469号 貸金業：東京都知事（2）第31237号 宅地建物取引業 登録番号：東京都知事（2）第88189号	フィンテックアセットマネジメント(株) 金融商品取引業（投資運用業、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第2014号 総合不動産投資顧問業 総合一第74号 宅地建物取引業 東京都知事（2）第86357号 貸金業：東京都知事（2）第31145号						
フィンテックグローバル証券(株) 金融商品取引業（第一種、二種） 関東財務局長（金商）第153号 貸金業：東京都知事（3）第30390号	FGIキャピタル・パートナーズ(株) 金融商品取引業（投資運用業、投資助言・代理業） 関東財務局長（金商）第2175号						

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2012年9月期業績に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実(以下、「将来情報」ということがあります)の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付(または当該資料・文書に別途明示された日付)時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

